

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4110311331		
法人名	医療法人社団如-water		
事業所名	グループホーム「かがやきの里」とどろき		
所在地	鳥栖市轟木町1574		
自己評価作成日	令和3年1月28日	評価結果市町村受理日	令和3年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和3年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

病院に隣接しているため、急変時に早急に対応できる。また、登録特定行為事業所に登録しており、各痰吸引、胃瘻での経管栄養の処置を介護員でもできるため、身体的に重症な方も入居できる。また、看取りにも対応しており入居者の最期の住処となれるようにケアをおこなっている。身体拘束ゼロをめざして玄関の施錠は夜間のみ、4点柵等必要に応じておこなっているが、漫然と行うのではなくスタッフカンファレンスで必要性、また、改善策等を検討している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体である医療機関に隣接しているホームである。喀痰吸引や胃瘻での経管栄養の対応ができる介護職員も在籍している。看護師も常時24時間オンコール対応されていて、医療的ニーズの高い入居者も対応できる体制が整備されている。口腔ケアに対して熱心に取り組まれている。職員での意見や要望は気兼ねなく、上司へ伝達することができ、コミュニケーションが図られており、入居者の情報共有は素早くケア改善などに反映されている。週に一度は、家族へ入居者の状態を報告し、今後のケアについての話し合いを行い、安心してゆったりと過ごすことのできるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印				項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印			
	1F	2F				1F	2F		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない		63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない	
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない		64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない	
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない	
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない	
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない						

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「すべての人に健康という幸せを提供し続ける」をカンファレンス時に唱和し、確認している。	理念は、玄関と事務所の見やすい場所に掲示されている。カンファレンス時に唱和し、全職員での実践がなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナ対策で面会制限を行ったため、夏祭りの開催ができなく、交流の場面はなかった。	コロナ禍のため、地域行事等が中途となっている。現在は、敷地内にある保育園の園児と一緒に、ホーム裏手の畑で芋掘り体験を行ったり、法人として地域の清掃活動を実施する等し、地域との付き合いを継続するよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご家族の参加をいただき、今年はコロナ禍での面会のあり方などを話あえた。	家族の参加を求め、家族が納得のいく形で開催を実施されており、議事録も整備されている。しかし、地域からの参加がまだない。	今後は、地域の代表者も参加できるような工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者情報の提出や、事故報告などを行った。	地域連絡会議にて年4回の会議に参加され、事業所についての情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみである。また、防犯カメラを設置した。利用者によっては4点柵が必要ではないかなどのお話合いを行い、記録に残した。	玄関の施錠は行っていない。身体拘束適正委員会も実施し、身体拘束しない工夫・検討をされている。やむを得ず拘束しなければならない場合は、家族の同意書を得て拘束しているが、日々観察し、身体拘束の解除に向けた取り組みに努めている。	やむを得ず身体拘束を行う場合には、必要な手続きや解除に向けた検討を行っているが、件数減少及び身体拘束をしないケアの実践に向けた検討の継続に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	包括支援センターの職員より講義を受けた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は外部への講義に参加できなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約書、重要事項説明書を読み上げ、説明をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を行い、意見を頂くようにしている。また、ご意見箱を設置している。	週1回、日曜日に家族に対し入居者の状態報告を行い、要望を取り入れるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスを行い、スタッフの意見をもらう機会にしている。今年度はコロナがあり、毎月のカンファができていない。	管理者は、職員の意見を積極的に聞き、出された意見や提案はすぐに代表者と相談し、運営に反映するよう努めている。また、備品等は必要時すぐに手配されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2の人事考課があり、個人面談をおこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内ではパソコンを用い、研修参加をおこなっている。今年は院外の研修には参加できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナにより、他事業所へ行くのはできていないが、管理者同士でラインを通じて意見交換などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者、家族に十分説明を行い安心して過ごせる環境作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に、ホームでの過ごし方などを伝えて安心していただくようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報にこだわらずに、言動に注意して何を望んでいるか言葉で表現できない部分を見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に散歩したり、家事(洗濯物を畳む等)ゆっくりした時間を大事にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランの作成時にはご家族の要望を取り入れるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は、コロナもあり面会を制限しているためにご家族以外の面会ができていない。	現在はコロナ禍のため、面会を制限している。しかし、入居者との顔が見える関係性が途切れないよう、タブレット機器を活用した面談を開始する等、柔軟な対応がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者も日によって、相性が合わないこともあり、その都度場所を変えたりし、陰悪にならないように援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外来等でご家族と会うことがあれば、声をかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉で要望が言えない方がほとんどであり、スタッフで話し合い本人の要望するところは何かを検討し、ケアしている。	言葉での意思表示が可能な入居者は少なく、職員の言葉かけに対する表情や仕草から、本人の思いや意向を把握するよう努めている。また、家族への聞き取りを行い、意向把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のケアマネジャーに情報をいただいたり、ご家族の協力を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事やトイレなどできるだけ、自立できるように援助している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーを中心にケアプランの作成を行っているが、日ごろの言動に注意し変化に対応できるようにしている。	6ヶ月毎の計画作成を基本とし、状態変化に合わせて随時変更している。日々の記録、評価、課題整理総括表記録を含めて、家族と話し合い、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の仕方などを指導している。できるだけわかりやすい言葉を用いるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年は外出が気軽にできなかったため、誕生日など特別な日を本人の希望を取り入れるようにした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年は外部との交流ができていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの主治医への情報提供をおこない安心して過ごせるようにしている。	受診時は、本人の日頃の様子その他、体温や血圧、検査結果等のデータについても、密に情報提供がなされている。24時間オンコール体制が敷かれており、急変等は速やかに受診に繋ぐよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	観察ポイントを伝え、また、少しでもいつもと違うなどの気づきを大事にして、些細なことでも報告するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度の入院ではご家族も含め、面会制限があった。短期間での入院になるようにいつでも退院できる体制であると伝えた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から、終末期、臨終にたいする説明を行い、入居者の希望、家族の希望をその都度聞き取りしている。	終末期に向けた方針は入居時に本人・家族に対し説明を行い、同意を得ている。また、本人の状態に応じて必要時に主治医より説明がなされ、重度化した場合の方針を家族と共有し支援するよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法を年1回、受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練と同時に、消防署の方から災害時の対応などを学んでいる。	年2回、災害訓練がなされている。火災通報装置もあり、備蓄品も整備されている。しかし、夜間専従職員や地域住民の参加はこれからである。	夜間専従職員の訓練参加が望まれると共に、地域住民が参加できる体制づくりに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者が長くなると「○○ちゃん」となったりするので、職員間で気をつけるようにしている。	入居者を尊重した言葉かけを行うよう、配慮している。常に職員同士で注意しあい、本人の状況に合わせた声掛けを行うよう努めている。また、記録物は定位置へ保管されており、個人情報の保護も適切になされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を表出することが難しいが、外に出たいなどの行動があるなどは散歩に出たりする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクレーションなどはその日によって行うので、参加したくない方は無理強いないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感がわからずに適切な衣類でないこともあるので、さりげなく声掛けして更衣してもらうことがある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみにしているようだ、準備等難しくお手伝いは頼んでいない。	入居者の状態に応じた食事形態で提供し、食べる楽しみを支援している。入居者が食べたいものを取り入れたメニューも提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量は制限がある方は注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアしている。本人の状態に合わせて歯ブラシだけでなく、ガーゼを使用したり、うがいが必要でない薬剤などに変更している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄を目指しているが、二人介助でもトイレに立たせている。	排泄チェックリストで個々の状況を把握し、立位可能であれば、トイレでの排泄を促し、排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックリストを使用し、便秘にならないようにしている。水分の促すこともしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂に入ることは好きだが、はいるまでの脱衣を嫌がる方もいるので、気をつけて声掛けしている。	週3回の入浴が実施されている。入居者の状態に応じて、リフトでの入浴、シャワー浴、清拭や足浴も行われ、心地よく入浴できるような支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れないときにはフロアで過ごすこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬を確認し、血圧などの変化は主治医に連絡している。下剤も反応便などの変化も注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケなどを楽しみ、みんなの前で歌わなくても、小さく口ずさんで楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は外出支援していない。	コロナ禍のため、外出は入居者の状況や天候に応じて、主に近隣の散歩を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームではお金の所持はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会制限あるときはご家族に電話を入れ状態報告しながら、入居者さんともはなしができるようにした。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアを自由に動けるように椅子などの配置に気がつけた。換気も気がつけた。	手が触れるところは小まめに消毒し、換気も定期的実施している。また、壁には季節感がある壁飾りを数多く掲示し、楽しく、かつ居心地よく過ごせる共用空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室内で過ごす方もあり、邪魔しないようにしたり、ソファで仲良く過ごす方もいた。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に協力していただき、タンスなど家で使用していたものをもってきていただいた。	ホームからベッドを提供している。財布や金銭以外は、使い慣れた家具等を自由に持ち込むことができる。入居者の思い出の品を飾る等し、個性あふれる居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	異食につながるものは置いていない。		